

保 育

郷土の素材を保育に取り入れるには、素材そのものに触れさせたり、ごっこ遊びなどを通して広がりをもたせたりすることが大事である。幼児が興味・関心をもち、主体的に活動できるように、幼児期にふさわしい生活を通して、幼児の発達や季節に応じて意図的・計画的に関連を図った活動を取り入れていくことが必要である。

1 保育で活用できる郷土素材一覧表

	郷 土 素 材 (例)		
遊 び ・ 音 楽	竹馬	竹筒の水鉄砲	竹とんぼ
	綱引き	相撲	縄跳び
	こま	めんこ	缶げた
	イヌマキ・ソテツの葉の手裏剣		
	お面	アダンの葉の風車	
	かごめかごめ	はないちもんめ	
踊 り	火の島太鼓	山川ツマベニ太鼓	
	十五夜踊り	豊年踊り	ソラヨイ
	七夕踊り	太鼓踊り	棒踊り
	松元お茶音頭	きりしま音頭	
	島唄	八月踊り	六調
自 然	< 飼育・栽培・収穫 >		
	ちゃぼ	海亀放流	チョウ
	さつまいも	じゃがいも	落花生
	オクラ	ピーマン	米作り
	菜の花	サトウキビと黒糖作り	
	桜島小みかん・みかん・キンカン・タンカン		
	狩り	びわ・梅ちぎり	ブドウ狩り
	< 触れる >		
	蒲生の大楠	屋久杉	クスノキ
	イチョウ	アコウ	シイ・カシ
	ガジュマル		
お 話	さつまのおいも	島ひきおにとケンムン	
	大浪池	きつねの化かしあい	
食	さつま汁	さつますもじ	鶏飯
	ぶり大根	とんこつの味噌煮	
	キビナゴの唐揚げ	さつま雑煮	
	油ゾーメン	さつま芋の天ぷら	
	みかんゼリー	大学芋	ふかし芋
	かからん団子	ふくれ菓子	
	アンダーキ		

「幼稚園教育要領」の内容
<p>【健康】</p> <p>(2) いろいろな遊びの中で十分体を動かす。</p> <p>(3) 進んで戸外で遊ぶ。</p> <p>(4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。</p> <p>【人間関係】</p> <p>(12) 高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。</p> <p>【環境】</p> <p>(7) 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。</p> <p>【言葉】</p> <p>(8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</p> <p>【表現】</p> <p>(5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。</p> <p>(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。</p>



(大楠の下で遊ぶ)

食 の 取 扱 い 方	<p>栄養職員と連携して、給食の献立に幼児が食べられる郷土料理を入れるようにする。</p> <p>保護者・祖父母参観日や行事等に、できるだけ郷土の特産品の入った弁当やお菓子を幼児と一緒に食べてもらう。</p> <p>郷土料理や郷土の特産物に親しませる。</p>
----------------------------	--

2 保育の実践

地域行事に参加しよう < 山川町立山川幼稚園 >

(1) 幼稚園の概要

山川町は薩摩半島の南端に位置し、海や野山などの自然環境に恵まれたのどかな町である。産業はかつおを中心とした水産業と野菜や花の栽培中心の農業、温泉と自然環境を生かした観光産業からなる。

本園は昭和 54 年に開園し、今年度で創立 24 年目となる。現在園児数は 13 名、5 歳児のみ 1 学級の 1 年保育である。園児は町内全域からの通園で遠方の幼児は幼稚園バスを利用して通園している。教育目標は、「あかるい きれいな 仲良く助け合う元気な幼稚園」である。

(2) 郷土素材を生かした保育

幼児は日常生活の中で、いろいろな体験を積み重ね、心身共に育っていくものであり、豊かな生活体験は人間形成の基礎をはぐくんでいくもととなる。その豊かな生活体験の一つに、郷土素材を生かした保育は欠かせない。幼児の生活は、家庭、地域社会、幼稚園と連続的に営まれるものであり、幼稚園生活において、その循環性を大切にすることが必要である。

幼児に育てたいものを明確にして、郷土素材を取り入れた環境構成を工夫するとともに、幼児が対象とじっくりかかわれるように、時間的なゆとりのある指導計画による保育を進めると、幼児は心を揺り動かし、満足感・充実感・達成感を味わうことができると考える。そして、地域への愛着が育ち、豊かな人間形成の一つの要素となっていくと思われる。

また、地域への愛着心が育つと同時に、幼児を取り巻く様々な物事に対し、大切にしていこうとする心が育ち、そのことは望ましい人間形成の基礎につながっていくと考える。

(3) 郷土素材を生かした保育年間計画

ア ねらい

- ・ 自分たちの住んでいる地域を知り、親しみをもつ。
- ・ 身近な環境とかかわる中で心を動かす出来事に出会い、感動を得る。
- ・ 直接体験を通して生活を豊かにする。

イ 活動内容

月	活動	内 容
4	園周辺の散歩	園に隣接する公園で虫捕りや木登りをする。
5	海岸散歩 みなと祭り計画	海辺の遊びを体験する。 みなと祭りについて知り、参加への期待をもつ。
6	芋植え体験 花植え体験 みなと祭り参加	小学校の農園に芋苗を植え付ける。 地元産花苗を使って親子でコンテナガーデンを作る。 おみこしを担いでパレードに参加する。
9	地区敬老会参加	各地区の敬老会の催しで踊りを披露する。
10	芋堀り体験	6月に植えた芋を収穫する。
11	どんぐり拾い 山川焼き体験	町の熊野神社に行き、どんぐりを拾う。 親子で山川の焼き物作りを体験する。
12	歳の市参加	町の歳の市の催しで踊りを披露する。
1	餅つき たこ揚げ	小学生が育てた餅米を使って合同で餅つきをする。 隣接する公園でたこ揚げをする。



(芋の植え付け)

(4) 山川みなと祭りに参加しようの実際

町には古くからの町の行事として「山川みなと祭り」がある。毎年6月最初の日曜日に開催されている。以前はかつお漁を中心とした漁業の繁栄を願っての祭りだったが、近年は町全体の産業の繁栄を願い、町民全体の祭りとして催されるようになった。園児も創立当時から踊りを披露することで祭りに参加してきたが、舞台での踊りは限られた園児の参加となるので、全員の園児が参加できるパレードにおみこしを担いで参加することになった。

ア ねらい

- ・ 友達とのつながりを楽しみながら遊ぶ。
- ・ 見通しをもち、自分から生活を進めていこうとする。
- ・ 自分たちの町の祭りに親しみをもち、祭りへの参加に期待する。

イ 内容

- ・ みなと祭りの由来を知る。
- ・ お互いの意見を聞きながら、おみこし作りについて話し合う。
- ・ 協力したり、教えあったりしながら、おみこしを作る。
- ・ 祭りに参加し、楽しく過ごす。

ウ 展開(5月～6月)

日時	幼児の活動	教師の援助・留意点
5月 1週	<p>かつおを使った給食を食べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元のかつおであることを知り、魚のことを話題にしながら親しみをもち給食を食べる。 <p>もうすぐみなと祭りがあることや、その由来について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの親の仕事や山川の特産物について話し合う。 ・ おみこし作りについて思い思いの意見を出し合う。 	<p>山川港に揚がったかつおであることを伝え、かつお節工場に勤めている保護者のことや山川の行事などについて話題にする。</p> <p>6月に参加するみなと祭りをきっかけにいろいろな仕事や山川の特産物について考える雰囲気を作る。</p>
2週	<p>おみこし作りについての話し合いで、どんなおみこしにするか決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おみこし作りの組分けをし、製作に取りかかる。 ・ 工夫したり、楽しい会話を弾ませたりしながら製作する。 ・ お互いの頑張りやよいところを認め合う。 	<p>おみこし作りについての話し合いの場をもち、祭りへの期待を膨らませるようにする。</p> <p>遊びの中でじっくりとおみこし作りに取り組めるように製作の時間や場所、材料等を準備し、環境を整える。</p> <p>製作の状況を見て、アイディアを出したり、難しいところは援助や助言をしたりするようにする。</p>



(力を合わせておみこし作り)

日時	幼 児 の 活 動	教師の援助・留意点
6月 1週	<p>海岸への散歩を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海辺で遊んだり，近くにあるかつお節工場の様子を眺めたりする。 みなと祭りに参加する。 前日におみこし担ぎの事前体験をし掛け声のタイミング等を知っておく。 	<p>風に乗って流れてくるかつお節工場の香りや海の魚等の話題に触れ，みなと祭りのムードを意識する。</p> <p>完成したおみこしを前に，お互いの頑張りを認め合えるような雰囲気作りをする。</p>
2週	<ul style="list-style-type: none"> たくさんの人々に混じって，パレードに参加し，満足感を味わう。 みなと祭りの思い出を話し合う。  <p>(おみこしわっしょい)</p>	<p>重いおみこしを担いでのパレードに全員で参加できたことを認め合い，これまで協力し合うことができたことを讃える。</p> <p>思い出のおみこしを保育室に飾り，みなと祭りの余韻を楽しめるような環境作りに配慮する。</p>

(5) 考察

みなと祭りを題材にしての活動を通して，山川町の地域行事に参加することができ，幼稚園生活の中で幼児一人一人の楽しかった思い出として，心に残ったことと思う。祭りに参加し，たくさん地域の人々とかわりを持ち，山川のよさや，温かさを感じるとともに，地域への愛着の芽生えも培われた。

おみこし作りは時間的にゆとりをもって取り組めるようにしたことで，幼児がそれぞれのペースで製作を楽しむことができ，祭りへの期待感が高まり参加当日までその気持ちを維持することができた。

おみこし作りの組分けはしたが，組を越えてお互いに協力し合う体制を取るようにしたことで，みんなのおみこしという気持ちを持ち，楽しい雰囲気で作ることができた。

祭りの終了後，思い出のおみこしの傍らでみなと祭りについてお互いの思いを話したり，次への期待を膨らませたりしてほしいという願いから，おみこしを保育室の一角に飾った。

郷土の文化に親しむ体験や，地元の食材を使った給食，周辺の公園での遊びなどを織り交ぜながらの体験は，幼児にとって貴重な体験である。これらは，幼稚園単独ではできない体験であり，幼稚園を取り巻く社会の協力や理解などがあつてのことである。このことを幼児に伝えていくようにし，様々な面で協力してくださる方々への感謝の気持ちを育てていきたい。

郷土素材を生かした体験には，人々との触れ合いや親しみの心，驚きや発見，感動や喜びなど心を揺さぶられる要素が多く含まれる。また，イメージや言葉を豊かにし，遊びや生活への意欲，成長へのあこがれの気持ちも育まれる。

郷土素材の活用においては，幼児の発達や季節に応じ，ゆとりある指導計画を組み，幼児の成長に価値あるものとなるように，幼稚園での遊びや生活の中に無理なく溶け込み，一人一人が主体的に活動に取り組めるような環境構成に配慮したい。

(1) 幼稚園の概要

本園は、昭和 47 年に中福良小学校に併設されて開園した。本年度は 4 歳児 13 人、5 歳児 16 人の小規模の幼稚園である。田園に囲まれた自然豊かな静かな環境にある。地域の文化活動は盛んで、地域の教育に対する関心も高く協力的である。

(2) 地域環境を生かした保育と年間計画

本園では、毎月高齢者や地域の人々と触れ合う園行事や社会体験を教育課程に位置付け、幼児がよりよい人間関係の広がりを深めるための交流活動を計画的に取り入れている。下表のように、自分の暮らしている地域を知り地域のよさに触れる体験活動を保育に計画的に取り入れて、地域の行事に参加したり園での保育活動を地区で発表したりしている。

月	活動	内容
4	園周辺の散歩	園周辺を散歩する。豊かな自然環境に触れる。(折々の季節に出会う) 近くの山(トトロの森)・川・田畑を眺める。春の草花・生き物に親しむ。 永里川周辺の農作業をされている人に出会う。
5	日曜参観日 春の一日遠足	中福良校区の人々に幼稚園を 1 日開放する。(地域開放の日) 地域探検「中福良よいとこめぐり」実施 白石神社、永里駐在所、中福良校区の人々と触れ合う。
7	お泊まり保育	南薩少年自然の家で知覧幼稚園の園児と宿泊体験をする。
9	十五夜行事	秋の实りに感謝する十五夜行事「ソラヨイ」を踊る。
10	運動の交流	なかよし運動会、町民体育大会に参加する。
11	保育の発表会	学習発表会、町文化祭、中福良校区文化祭で歌や踊りや絵を発表する。
12	お楽しみ会	「ソラヨイ」のオープニングで会を始める。

(3) 十五夜行事で行う地域の伝統芸能「ソラヨイ」

平成 13 年度から町内に 5 園あった幼稚園が 2 園になり、浮辺、手箕、松山地区の幼児はバス送迎によって、知覧地区の 4 歳児も自家用車で中福良幼稚園に通園している。これまで幼稚園周辺を中心にした校区の地域の素材を取り入れた保育であったが、通園区域が広がって、知覧町全体をみた郷土素材も取り扱うようにした。その一つとして地域の伝統芸の「ソラヨイ」の十五夜行事がある。

「ソラヨイ」は、国指定重要無形文化財で、知覧町に伝わる南薩摩の十五夜行事の一つである。「それはよい」という意味で、秋の实りに感謝する。中福良集落では、4 歳児男児から中学 1 年生までがこの行事に参加し、月夜に幻想的な踊りを披露する。幼稚園児と小学生のドシガタイ(同志組)は、わらで作った円錐形のかさをかぶり、みにふんどし姿で「今夜来んと明日(あい)の晩な、



(「ソラヨイ」行事)
麦わら三把松明(ていまつ)五丁、ホーイホーイ。」と歌いながらコズンガラ(竹筒)の周りを回る。その間にコズンガラの中の中学生のオヤンカシタ(親頭)が「サー」と叫ぶと、ドシガタイたちは「サーヨイヤンソーシッ、ソラヨイ、ソラヨイ、ソラヨイ、ヨイヨイヨイ。」と唱和してしこを踏む。

9 月の十五夜前の時期になると、地域を挙げて「ソレヨイ、ヨイヨイヨイ。」の掛け声がする。同町内の浮辺地区にも「ソラヨイ」行事はあるが、踊りや歌や衣装が多少異なる。町内の各地区の幼児が集まる幼稚園で、幼児の遊びからその違いに気付き違いを楽しむ姿が見られた。

(4) 地域の十五夜行事の「ソラヨイ」を踊ろうの実際

ア ねらい

- ・ 好きな遊びをしながら園のリズムを取り戻す。
- ・ 意見を出し合ったり，お互いのよさを認め合ったりしながら，遊びや園生活を楽しむ。
- ・ 十五夜行事の「ソラヨイ」の踊りを知り，友達と楽しく踊り合う。

イ 展開(9:00～11:00)

幼 児 の 活 動		教師の援助・留意点										
<p>登園後，好きな遊びを楽しむ。</p> <table border="1"> <tr> <td>保育室</td> <td>園庭</td> </tr> <tr> <td>オナモミの実(的当てゲーム)</td> <td>お茶作り(香草・椿やツツジの葉)</td> </tr> <tr> <td>おしろい花の実(お化粧遊び)</td> <td>ジュース作り(ペチュニア・おしろい花)</td> </tr> <tr> <td>折り紙や切り紙(製作活動)</td> <td>ケーキ作り(どんぐり・松ぼっくり)</td> </tr> <tr> <td>お面作り(ヤツデ・彼岸花)</td> <td>砂場(砂山やトンネル作り)</td> </tr> </table>		保育室	園庭	オナモミの実(的当てゲーム)	お茶作り(香草・椿やツツジの葉)	おしろい花の実(お化粧遊び)	ジュース作り(ペチュニア・おしろい花)	折り紙や切り紙(製作活動)	ケーキ作り(どんぐり・松ぼっくり)	お面作り(ヤツデ・彼岸花)	砂場(砂山やトンネル作り)	<p>幼児が興味をもっている道具や材料を準備しておく。</p> <p>トトロの森までの散歩で見付けた秋の素材を使いやすいように置いておく。</p> <p>「ソラヨイ」のかぶり物や腰みのを保育室に飾って興味を喚起する。</p> <p>グループに分かれて遊んでいる幼児へそれぞれに声掛けをする。</p> <p>「知覧茶です」と幼児が差し出したのを「いい香りね」と言っていた。</p> <p>砂山を作っていた幼児に「ソラヨイのコズンガラみたいね」と声を掛ける。</p> <p>「中福良と浮辺じゃ少し違うのかな」と問いかける。</p>
保育室	園庭											
オナモミの実(的当てゲーム)	お茶作り(香草・椿やツツジの葉)											
おしろい花の実(お化粧遊び)	ジュース作り(ペチュニア・おしろい花)											
折り紙や切り紙(製作活動)	ケーキ作り(どんぐり・松ぼっくり)											
お面作り(ヤツデ・彼岸花)	砂場(砂山やトンネル作り)											
<p>中福良と浮辺の「ソラヨイ」の違いに気付く。</p> <table border="1"> <tr> <td>保育室</td> <td>園庭</td> </tr> <tr> <td>遊びながら「ソラヨイ，ヨイヨイ」と掛け声を掛け合う。</td> <td>砂場の子も掛け声を口ずさみ，それぞれが遊びの中で掛け声を掛け始める。</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">園庭</p> <p style="text-align: center;">中福良の男児が輪になって踊り出す</p> <p>浮辺地区の子：「そうじゃない」「あれ何か変だよ」「本当はこうだよ」と踊って見せる</p> <p>中福良地区の子：「違うよこうだよ」「僕たちのが本当だよ」と言い合い，歌や踊りに多少違いがあることに子ども同士が気付く。</p>		保育室	園庭	遊びながら「ソラヨイ，ヨイヨイ」と掛け声を掛け合う。	砂場の子も掛け声を口ずさみ，それぞれが遊びの中で掛け声を掛け始める。							
保育室	園庭											
遊びながら「ソラヨイ，ヨイヨイ」と掛け声を掛け合う。	砂場の子も掛け声を口ずさみ，それぞれが遊びの中で掛け声を掛け始める。											
<p>両集落の「ソラヨイ」を交互に踊り，みんな一緒に踊って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これが中福良のソラヨイ」「こっちが浮辺のソラヨイ」と違いを楽しみながら踊り出す。 ・「ソラヨイ」行事のない地区の子：面白おかしく踊る友達の姿を見よう見まねで覚えていく。 ・女兒も輪になって踊り出し，みんなで「ソラヨイ」を踊り続ける。 		 <p>(「ソラヨイ」を踊り合う)</p> <p>幼児のしばらく踊り合う姿を見守り，教師も一緒に輪に入る。</p> <p>十五夜行事への意欲付けを図る。</p>										

(5) 考察

9月いっぱい毎日の保育の中で「ソラヨイ」を踊る幼児の姿が見られた。教師も集落の踊りや歌の違いを幼児の遊びの中から知った。12月のお楽しみ会は，中福良のソラヨイの掛け声で始め。全園児が一体となってソラヨイの歌とポーズで盛り上げることができた。

今後，教師がもっと郷土を知り，郷土のよさを幼児期から心に浸透させていけるよう教育課程に位置付ける大切さを感じた。

高齢者や地域の人々と触れ合う交流活動や自分の暮らしている地域を知り地域のよさに触れる体験活動は，幼児がよりよい人間関係の広がり深める上で有効であると考えます。

幼稚園は，地域の幼稚園として，「地域に期待される幼稚園」であり，「地域に育てられる幼稚園」でもある。地域の行事に参加したり園での保育活動を地区で発表したりすることは，幼児も励みとなり，地域民の喜びとなるので，計画的にゆとりをもって実施することが望まれる。

(1) 幼稚園の概要

本園は、昭和24年に設立され、昭和26年名瀬市立の幼稚園となる。5歳児2学級の1年保育で、園児は7地区から歩いて登園してくる。小学校の校庭を通過して登園するため、小学校への興味・関心が高い。周囲に朝日の森、ヨフタ川、スクスク農園があり、自然環境に恵まれ、小動物や草花に触れる機会が多い。

(2) 郷土素材を生かした保育

奄美大島には昔から伝わる「島唄」があり、脈々と歌い継がれている。しかし、幼児や教師の中にはよく知らない者も多い。そこで、地域の人々や高齢者と触れ合いをもつことで、郷土の素晴らしさを実感して教師や幼児同士だけでは得られない豊かな心情を培うことができると考え、指導計画に位置付けてに交流活動を実施した。

島唄を保育に取り入れ、親しみをもって歌ったりいろいろな表現活動をしたりする上で、教師だけではできないことを、地域の方々の協力を得て充実させることにした。地域のいろいろな人とのかかわりの中で、郷土のよさを感じるとともに人への思いやりの心も育っていくと考える。

(3) 地域の三味線同好会の方々との交流の実際

ア ねらい

- ・ 親しみをもって、島唄を聴いたり歌ったりすることができる。
- ・ 島唄を教えてくださる方々への感謝の気持ちをもつ。

イ 展開 (10月～11月)

日時	幼 児 の 活 動	教師の援助・留意点
10月 1週	三味線同好会の方々との初めての交流会 ・ 自己紹介 ・ 島歌を聴く。	初めての交流会なので、お世話になる方々の紹介をして、親しみをもって接することができるようにする。 交流会が終わる時は、必ずお礼のあいさつをし、感謝の気持ちを伝えるようにする。
10月 2週	第2回目の交流会 ・ 小学生と合同で島歌を聴く。 ・ 島唄のハヤシの部分を一緒に歌う。 ・ 島唄の歌詞の説明を聞く。	幼児の分かる部分(ハヤシ)から導入し、自分たちも一緒に歌うことで、島唄を身近に感じ取ることができるようにする。 島唄をテープに録音し、好きな時に聴くことができるようにする。
10月 3週	第3回目の交流会 ・ 島唄のハヤシの部分を一緒に歌う。 ・ 島唄に合わせて太鼓をたたく。	歌詞の説明をしてもらい、少しでも理解させて歌うことができるようにする。 太鼓を取り入れて、さらに楽しく表現できるようにする。
10月 4週	第4回目の交流会(小学生と合同) ・ ハヤシだけでなく歌の部分が歌える 幼児は、同好会の方と一緒に歌う。 ・ 地域の「輪内音頭」を踊る。 ・ 島唄に合わせて太鼓をたたく。	回を重ねるごとに内容に変化をもたせ、島唄をいろんな形で表現できるように工夫する。 島唄の歌詞を説明しながら、島口(島の方言)も取り入れてもらうようにする。
11月 1週	第5回目の交流会(小学生と合同) ・ 地域の「輪内音頭」を踊る。 ・ 島唄に合わせて太鼓をたたく。 ・ 六調の踊り方を知る。	小学生とは数回交流するので、踊りの振りを参考にするように声掛けをする。

(5) 考察

交流会の回を重ねるごとに、幼児が三味線同好会の方々の一人一人を「 のおばちゃん、 おじちゃん」と親しみを込めて呼び掛けかけるようになった。

三味線同好会の方々の温かい励ましと声掛けが、島唄にさらに親しみををもたせ、幼児が進んで歌うようになった。

同好会の方々は交替で参加され毎回違う方がいらしゃるので、「今度は誰が来るのかな」と楽しみに待つ幼児の姿が見られた。



(これが三線だよ)

普段あまり自分を出さない幼児が、友達の前で歌ったり、太鼓をたたいてみたいと意欲的に取り組んだりする姿が見られた。自分なりの表現をする楽しさを見付けることができたと考えられ、多くの人とのかかわりをもたせることの大切さが分かった。

郷土の話や食に触れよう < 徳之島町立花徳幼稚園 >

(1) 幼稚園の概要

本園は昭和 50 年開園し、園区は、徳之島町の北より海沿いのほぼ中程に位置し、東には遠く奄美大島本島、瀬戸内町の島々が見える。そして、南北に連ねる天城山系を背景に受け、約 1 km も連なる砂丘の花徳浜が広がる風光明媚な所である。季節によっては海風が強いが、閑静で朝夕に小鳥がさえずり、情緒面には大変よい環境である。

園児は四方に広い地区から通園してくる。園児数は 3 歳児から 5 歳児まで合わせて 16 人で、保育活動は混合での保育がほとんどである。小規模校区で、どの幼児も近くに祖父母や知り合いがいて、地域の方は様々な行事等にも協力的である。

(2) 祖父母や地域の人とのかかわりを生かした保育

野菜や花の栽培、さつまいもやとうもろこし、タンカンの収穫など、保護者や祖父母の参加があり、一緒に活動する楽しさと収穫や勤労の喜びを味わっている。また、小学校の学習発表会では、地域の高齢者は園児の発表を参観するだけでなく、地域のおばあちゃんたちの寸劇などもある。

このように、様々な幼児の活動において、祖父母・保護者や地域の人が積極的にかかわりを持ち、地域が一体となって、幼児・児童の成長を楽しみにしている。

(3) さつまいもの生長を通しての実際

保護者の農園を借用し、保護者・祖父母や地域の人との協力を得て、6 か月の長い間幼児は、さつまいもの成長を楽しみに世話をする。祖父母や地域の人々は、その世話をするたびにかかわりを持ち、郷土の食を持ち寄ったり、昔の話を語ったりした。そのことが幼児が自分の住む地域への思いをふくらませていった一つの実践である。

ア ねらい

- ・ さつまいもの生長を楽しみにしながら、進んで世話することができる。
- ・ 地域の方の話を聞いたり、自分のことを話したりすることができる。

イ 展開（5月～10月）

月	活動	内 容
5	芋づる植え	<p>保護者が耕して準備した畑に集合。地域の高齢者による芋づるの植え方の説明を聞いてから、保護者や祖父母の手伝いをもらい一緒に楽しく植える活動をする。</p> <p>地域のおばあちゃんの手作りにおやつをいただく。</p>
7 、 9	草 取 り	<p>みんなで植えた芋の生長・変化に気付き、保護者や祖父母・教師と一緒に草取りに参加する。</p> <p>暑い中なので、事前に草取りの意義などを幼児に話し、励ましながら草取りの作業を進める。</p>
10	芋 掘 り	<p>地域のおじいちゃん、おばあちゃん、保護者が参加して、一緒にスコップやくわを手にして自分の名札のある畝の芋を掘った。見つけた芋を周囲の人に見せて喜んでいた。</p>



（おいしい手作りおやつ）



（大きなお芋ができたかな）

(4) 考察

様々な交流活動のたびに、祖父母や地域のおばあちゃんたちが手作りの昔からの郷土のおやつ（油ぞうめん、ふくれ菓子、アンダーキなど）をつわぶきの葉に載せられて用意され、それをみんなで一緒に食べた。その際、参加した高齢者の方に依頼して、幼児の前で、昔の畑仕事の休憩時間の様子を話してもらった。また、昔話を話してもらったり島唄を歌ってもらったりした。

半年もかかるさつまいも栽培であるが、幼児は地域の人々の協力や理解をいただき、活動にじっくり取り組んでいた。祖父母や地域の人に褒められたり励まされたりして、暑い中での作業も根気強く続けることができた。

幼児は園内外の様々な活動や行事を体験する中で、たくさんの地域の人とのかかわりを持ち、花徳の地域のよさや素晴らしさを感じたり、昔の地域の様子を知ったりして、協力して下さる方へ感謝する心が育っていく。



（おじいちゃんやおばあちゃんと掘ったよ）